

イワクラサミット in 上毛 ツアー添乗記

イワクラサミット in 上毛 実行委員会スタッフ
鈴木 美佐子 (超歴史研究会)

10月17日、問題のツアーが始まった。

えっ!? 何が問題かというところ、実はツアー開催1週間前のこと、ツアーに使うバス会社から突如、「当初の移動時間では無理なので、名草等の見学時間を短縮してくれなければバスを出せない。高崎駅着も5時を過ぎる。云々」との申し出があり当方は大慌てであったのだ。

バス会社の変更まで考えながら、須田氏・仲田氏の交渉は直前まで続いた。

巨石を観るツアーなのに見学時間の短縮は認められないと強行に申し入れ、代わりにトイレ時間の短縮や乗車の迅速化などを提案した上で、やっと担当者も後学のために同乗することでOKが出たという、いわゆるときのツアーの始まりであったのだ。スタッフが何度も下見してのコースであり、移動時間にも我々には自信があったが、バス会社は例年のこの時期(紅葉狩り)シーズンの車の

渋滞が頭にあつたものと思われる。しかし、猛暑が幸いして、紅葉はまだ始まってなく、したがって渋滞もないのではないかと思われたが…。かくして、学会初の添乗員付きバスツアーが始まったのであった。

当日、8時に早めの出発にもかかわらず、ツアーの皆様が予定時刻前には揃い、バスは一路、榛名神社を目指した。

8時15分着。さすがに朝の神社はすがすがしい!

参道から少し行くと、鞍掛岩(くらけいけいわ)が右手川向こうに見える。昨日の江尻氏の話で、予備知識も万全な一同は、右に左に神社のイワクラや景観を楽しまれている様子…。
手水場からはみずずの滝が美しく見えている。



後世に人工的に作られたものだというが、榛名神社に沢山見られる陽石に対する陰石として自然の岩の間に、川から水を引いて作られたものだという。冬には凍結した美しい姿を見せる滝である。ツアー客らは、背後にそびえる「ヌボコ岩と一対に作られたんだね。」「これは、大股開きだね!」などと楽しそうにご覧になる。

手水の手前には、榛名の元の信仰であったと言われる「万年泉」がある。

日照りの時には、この井戸の水を竹



筒に入れてリレーのように一度も止まることなく、村まで走り帰り、干上がった畑に水を撒いて雨乞いの儀式を行えば、その霊験はあらたかであつたと言う。

そして、階段を上った所には立派な竜を彫った双龍門があり、その後ろには滝と一対になると言うヌボコ岩が聳える。景観である。

さて、本殿の後ろには御姿岩が聳え、本殿前には弥陀窟の岩壁が聳え



立っている。

さすがに御姿岩は美しく、存在感が感じられる。御姿岩の下部には洞窟状の空間があり、そこに「御内陣」と呼ばれる主祭神を祀る場が設けられているらしい。

神主でも60年に一度、内陣の鉄の扉を交換するときだけしか入る事が出来ない秘中の場所なのであるが、明治時代の神仏分離の折りに考古学者の方が見たとかで、文章を残している。

それによると、内陣の入り口には三枚の鉄の扉があり、一枚目をあけ



るところには神様の足跡が残されているという。また三枚目の扉の先には洞窟に続く階段があつて、その前にもやはり神様の足跡が残されているという。

洞窟の奥には弥生式土器とも伝えられ

る甕が6個置かれていて、2つはすでに壊れていたと書かれている。また、神殿に向かい合う、弥陀岩には随分と高い所に三つの洞窟が掘られている。

今でこそ、危なくて登っていけないそうだが、修験が盛んだったころにはここで修行したという。弘法大師の彫った阿弥陀如来像が納められていたともいわれている。弥陀岩と云われる由縁である。

さて、ここで会長が双龍門を上から見下ろしておっしゃるには「この門の建築は非常にすばらしい！こんなにすばらしい建築はなかなか見られない！」とおっしゃるのだ！

確かに四方正面の門はすばらしく均整の取れた美しい曲線を描いている。

渡辺会長の言葉に、周辺にいた会員は双龍門をバックに記念撮影！双龍門は人気撮影スポットになった。

探索に余念のない方々を、双龍門に誘い、ここで記念撮影して、全員



を確認して下山し始める。ここで、会長は双龍門のところの角度を15度と測られていた。
 ゾロアスターの聖角度20度には少し足りないが、会長は、ここでも何かを感じられた様子であった。群馬の地でも会長の新しい見解が開かれるかも…。と、ちよつと期待！
 帰り道では水琴窟の音色を聞いてもらって喜んでもらった事も嬉しく感じる。

集合場所の資料館は9時半に開くために、見学時間は15分しかなかったはずが、資料館の方の好意で早めに開けて下さったので、少しゆつくりと拝観することが出来た。

ここも、トイレを済ませてもらって、バスは定時出発となった。

ここからは、約1時間ちよつとの行程である。ここでバスの中で嬉しいサプライズがあった。なんと、暖かいお絞りと、コーヒーと日本茶が提供されたのだ！一同、思いもかけぬサービスに大感謝！これは本当に嬉しかった。一時間の移動もコーヒータイムに癒されて、順調に波志江パークキングから高速を降りて産泰神社へ向かう。ここではバスが違いうルートで神社へ向かった為、スタッフの車より遅れて到着。

産泰神社は子育て、安産の神、木花咲耶比咩命を祀っているせいか、この日も初参りや七五三の家族連れが沢山訪れていた。一般の参拝者はまず訪れない神社裏手に我が巨石群



はある。

この巨石群は、約13万年前、赤城山の大規模崩壊で生じた岩層なだれが集積し形成された「流れ山」であると考えられている。その岩山にも体内くぐりと称される空間や杯状穴がある。

ここでは陰石と思いき岩が触ると暖かく感じられるのを発見！

そして、山頂の杯状穴が20度である事が判明！ひよつとしてここで

もゾロアスターの影響があるのだろうか？ 会員の鋭い指摘に、何度も来ているスタッフも新しい発見に興奮さみ。

これだから、磐座探訪はやめられないのかも知れない。

駐車場から赤木山を見ながら、満足を胸に波志江パークキングに戻り、ここでトイレ休憩とお弁当を配る。

スタッフより高崎のだるま弁当を提供したいという声もあったが、こ



こは予算の関係もあり、お弁当で我慢していただく。だるま弁当は、皆様、新幹線の車中で召し上がられたでしょうか？

車中で、お弁当を食べていただきながら、バスは一路「名草巨石群」へと向かう。

高速道路は渋滞もなく順調で予定より早く現地へ到着。

名草巨石群までの道程は整備されているものの、コンクリートの道で、逆に疲れてしまう。



足の弱い方にはスタッフのレンタカーで、裏道から奥の院まで回ることにした。

バスで山頂まで行ってもらえたら、時間の短縮になるのだが、さすがにこちらまでは、わがまを聞いてもらえなかった。

少し、曇り空で、スタッフとしては晴れ間が欲しいところだった。晴れていたなら、きっと小川に金のように黒雲母がキラキラ光り輝いて、皆様に感嘆の声をあげていただけたのに残念。

それでも、湿った岩は、それなりに美しいはず。厳島神社のお供岩前で記念撮影！

弁慶の割石を見ていたら、横から見ると人の顔に見えるという。郡司さんも始めて気がついたとおっしゃる。もちろん他のスタッフにも耳新しい発見であった。

見事な厳島神社の岩やお供岩の笠石。胎内くぐりを観ていただきながら、奥の院への道を進んでもらう。



奥の院は累々と巨石がたたずんでいる。

る。

ここで、石に楔を打ち込んだものが目につく。しかしこれは、石を割ろうとしたものではないと云う。割るつもりならば、楔の後は長方形で、中が四角推になっているはずだといふ。

それが、この溝には当てはまらないというのだ。では、誰が何のために空けた楔後なのだろうか？

と、その前の岩に枡形の杯状穴を見つけた会員が居られる。舟石のそばで穴になった奥にも杯状穴が横に三つ見えるという！これは、ひよつとして北斗七星か！一回はまた、大いに盛り上がったのであった。さて、巨石を探索している他グループでは、ここにある岩で昔は神殿が築かれていたのではないかと話に花が咲いていた。

皆、今度は目の前の岩々を組み合わせて頭の中で組み立て始めていた。



驚きの発見、楽しい時間が過ぎていった。
 少し、心残りの思いを胸に、バスへと皆様を誘った。バスは最後の目的地。観音山古墳へと向かった。時間も、予定通りである。バスの運転手さんは会社に提出する時刻表を丹念に書いておられた。ご苦労様です！
 そして、車中では、二度目のコー

ヒーとお茶の用意が始まった。車中では、感謝の歓声が上がった。本当に、暖かいお絞りと、入れたてのコーヒーとお茶の差し入れはありがたかった。

波志江インターチェンジではトイレ休憩は5分。ちゃんと10分後に出発できたのも皆様のご協力のお陰とスタッフは感謝！そして、無事に観音山古墳到着。

観音山古墳は横穴式石室に入ることが出来る。名物の解説者のおじさんは、慣れたもので面白おかしく、古墳の内部の説明をしてくれる。この石室から沢山の遺物が出たのは、石室が崩れ落ちていたため盗掘されなかった為との事。

復元された、石室内の石壁には古墳時代の石がそのまま使われているそう。また、下に敷かれている石は古墳時代のままなのだそう。

古墳の中に入る機会などあまりないと思うのだが、参加された皆様は楽しんでいただけたでしょうか？



古墳の上からは夕暮れの上毛三山が見えた。

妙義山系は霞で曇ってはいるものの、榛名山系は榛名富士を筆頭にくつきりとその稜線を見ることが出来た。

バスでは添乗員の方が、「仲田・須田氏とのやり取りの中で、巨石に興味を持ったため休みにも係らず添乗した。」と、お話されていた。バス車内で、皆が「興味があるん



だったらこの機会に磐座学会に加入すれば！」と彼を煽る。しかし彼は磐座に「まだ早い」と言われたとかで、なかなか上手な逃げ口上であった。

しかし、磐座に興味を持ってくれたことが、今回の彼の気遣いの表れだったように思う。

あれだけ心配したツアーも1時半には、高崎駅にて無事に終了となり、スタッフ一同、事故もなく無事にツ

アーが終了したことにホッとしたと同時に、皆々様に感謝。
ツアー参加の皆様、そしてバス会社の添乗員さん、本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございます。

了